（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1290800059		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム市川国分		
所在地	千葉県市川市国分2-10-20		
自己評価作成日	令和3年1月13日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症になっても、それまでの生活を引き継ぎ不通の生活を営むことができるよう、支援しております。
日常の家事活動を始め、団らんの時間、お一人の時間、活動的に過ごされる時間をその人のペースで行えるよう、寄り添っております。
愛の家GH市川国分は、今では希少価値の高い1ユニットです。
設備、空間は限りがありますが、職員・入居者様の距離感が近くまるで同居家族のような雰囲気で毎日を送って頂いております。
ご自身が毎日の生活が楽しいと感じて頂けるよう、日々工夫をしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野３－１１－１５
訪問調査日	令和3年1月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームの目標として「入居者様とスタッフの笑顔がいつも溢れる楽しいユニット」を掲げている。利用者９人のホームであり、利用者一人ひとりの思いや要望をしっかり受け止め、微妙な表情を見て先手先手を打っているために大きなトラブルは殆どない。利用者調査でも「最小規模のグループホームということもあり、常に入居者全員に目が届く利点があります。そのため細かなところにも気づきが有り連絡をくれる等大変助かっています」等の意見が書かれている。コロナ禍で外出を自粛しているため、テレビやチラシを見て好きな寿司の出前やすき焼き弁当を職員にテイクアウトしてもらい、美味しい食事のひと時を楽しんでいる。また、競馬が好きだった利用者は、競馬新聞を買ってきてもらいテレビ中継を見ながら、予想が当たったなどと昔を思い出す一場面もある。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や申し送りの際に唱和をしています。全利用者様と私たちは家族であり、日々の様子観察はもとより必要であれば一日の行動も小まめに記録に残し、人にしか出来ない支援を共有している。	会議や申し送りの際に理念を唱和し、事業所の目標として「入居者様とスタッフの笑顔がいつも溢れる楽しいユニット」を掲げている。1ユニット9名のホームであり利用者一人ひとりの思いや要望をしっかり受け止め、微妙な表情を見て先手先手を打っているため、大きなトラブルは殆どない。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において、防疫施策のため自粛を余儀なくされているが、今後は新たな形で関わって行きたい。	自治会に加入し回覧版が回ってくると、管理者が向かいの家へ持参し、管理者交代の挨拶等をしている。コロナ禍で自治会の行事である夏祭りも中止となり、地域との交流は激減している。今後はアンケートに参加したり近隣のGHとの交流を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも気軽に相談がして頂けるよう、自治会を通じて周知活動を実施している。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行っている。 現状は行政指導の元、お手紙を利用して意見交換を実施している。	運営推進会議は2ヶ月に1回手紙のやり取りで行っている。手紙の中で、例えば、お便りを変えたことについての質問に対して、写真が多くなって見やすくなった等の意見や各報告等について議事録として地域包括や自治会長、家族全員に報告している。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へ定期訪問したり電話連絡をするなどしていい関係を築けるようにしています。 また運営推進会議に参画していただいています。	コロナ禍ではあるが、市の福祉政策課へ訪問し事故報告や変更届等各種書類のやり取りを行っている。行政からは、2ヶ月に1回FAXでマスクや手袋の配布の知らせがあり、都度中山競馬場の近くの駐車場まで取りに行っている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがあります。 3ヶ月に1度の研修を行い、常に正しい行動・理解を求めている。	3ヶ月に1回一人ずつ順番に身体拘束等に関するセルフチェックを行い、それらを基に法令や身体拘束をしないケア等を繰り返し研修し身に付けている。職員用のトイレに、日常一番起こりやすいスリーロックの例が貼ってあり、毎日目にして自然と身に付くような工夫がされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアルを通じ虐待防止に努めております。常に職員の行動や日報の確認を行い注意しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性を関係者と話し合い、管理者は知識として持ち合わせるように日々学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、理解が深まるようより具体的な例を上げながら、わかり易い表現を用いてご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでの様子を毎月お便りで報告しています。利用者様やご家族様の意見を来訪時や運営推進会議の際にお伺いし、改善・実行しています。	「市川国分便り」をA4判2枚からA3判の両面にし、利用者の写真を多くしてコロナ禍での面会自粛に対応している。毎月お便りと一緒に運営推進会議の報告等を送り、意見等を伺い会議に諮り改善・実行している。また、利用者に変化が有った場合等は、電話でも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議を月1回以上行い、意見交換をする機会を設けている。 職員の想いを実行出来るよう、積極的に実行している。	全体会議・ユニット会議の中で職員の意見を聞いている。例えば、材料費が多少かかるが、正月に初詣に行けないので段ボールで神社を造ったり、福笑いを作って利用者に喜んでもらったり、ケーキを作っておやつパーティを開いたりした。これらにより、職員の自発行動が多くなり、働く満足に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務管理をしっかりと行っています。職員とも定期的に面談をして意見や悩みを聞く機会を設けています。行事を役割分担し、やりがいに繋がる工夫もしています。 残業0を目標に掲げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の定期研修は1ヶ月に1回以上実施。社外研修についても、有用なものを選別し適宜案内している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域や行政の認知症介護の勉強会や研修など希望者には参加できるようにしています。近隣グループホームの交流も行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困ったこと、不安なこと、要望を聞き細かくアセスメントしニーズにあったケアプランの作成を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること、不安なこと、要望はケアプラン作成前に聞きプランに繁栄し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前の訪問アセスメントを必ず実施。利用前の環境等を把握し、適切なサービスが提案できるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事出来ない事をよく見極め役割を与えて一緒に生活していける関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、本人、施設が一緒になり悩み考え支えていける関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人レク等で馴染みの場所に行ったり手紙や電話等で連絡をとるなどして関係が途切れないよう努めている。友人の来訪などもあり途切れることのない関係にも支援をしている。	昔の友人から2ヶ月に1回位電話や手紙が来る。例えば、俳句の会の関係者が手紙をくれたりしている。コロナ禍で外出が出来ないので、テレビやチラシを見て寿司やすき焼き弁当等食べたいものを出前やテイクアウトで購入し食事を楽しんでいる。競馬が好きな人は、競馬新聞を見て予想し、テレビ中継を見て一喜一憂している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する事がない様、利用者同士の関係作りも支援している。関係が崩れそうな時は早めに職員が間に入りトラブル防止に努めている。お互いが支え合えるよう複数での外出も心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に至る支援を実施し、その後のご様子についてもお手紙等で連絡を取り合うなどしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム内での全体会議・ユニット会議で個々の希望・意向を再確認し個別ケアに努めている。	日々の声掛けや会話の中から、利用者が不満なこと、嬉しいこと等を見つけ出すようにしている。最近の例では、入居間もない利用者が暇になると自宅に帰りたいという願望が強く出るため、食器洗いをお願いして気持ちを落ち着けるようにした。このことで、利用者の表情も変わってきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様にアセスメントを行っています。出来るだけ入居前の生活に近づくよう馴染みの家具等をご持参いただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせた生活リズム・スタイルを把握している。細かく記録にも残しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホームでの様子を毎月お便りで報告し要望、意見等は出来る事は迅速に対応しています。また、対応できない場合は出来ない理由をしっかりと説明しています。	座位を取るのが難しくなった利用者に入浴でどうするかを家族と相談の上、安全第一を優先し清拭に切り替えた例がある。トイレの使用時に自分自身でできない方には、職員が話しかけ誘導するといった細かなケアプランの作成に注意を払うようにもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の水分量・排泄量・健康管理表・ケア日誌・個人記録・送りノートで情報共有をし介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で話し合い、困難な状況になっても最後まで諦めずあらゆる方法や工夫で支援するよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺にスーパー等があり、必要に応じて買い物同行をしている。現在は防疫対策の為、自粛中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診の先生が受診に来る。その他専門医受診が必要な場合は家族、ホームが協力して受診をしている。利用者の希望により昔からのかかりつけ医通院も可能。	入居前からのかかりつけ医を希望している人が一名いるが、近々ホームの提携医に切り替えることになっている。また、腎臓関係に掛かっている方は、家族が病院に連れて行っている。結果はホームに連絡をもらっており、処方箋、配薬はホームが提携している薬局で行うよう一本化している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週１回の訪問看護がある。 情報共有し適切な看護が受けれるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行きソーシャルワーカーと相談、情報交換をしながら早期退院が出来る様に支援しています。併用してご家族とも密に連絡をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、契約時に重度化した場合の事業者対応をお話しご家族様の同意を得ている。段階によって医療従事者、家族を交えていつでも話が出来る様に努めている。	入居から看取りまでホームで暮らすことが、本当に本人のためなのか最近疑念を抱くこともある。立位を保つことが難しくなり、車いすを利用することになると食事がなかなかとれなくなる傾向にある。早めの段階から家族と相談し、より専門的なサービス提供ができる特養等への意向も選択肢として考えられ、早めの対応と家族との連携を念頭に考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルに沿って対応ができるよう、定期的に研修機会を設けている。 その時々に応じて実際に対応頂くことで、経験を積んで頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い災害時に備えている。社内マニュアルもあり掲示していざと言う時に慌てないように準備している。	7月は夜間、1月は日中を想定して、地震発生から火災が起きたことを前提に訓練が行われた。水害時の避難に関しては、地域との連携をどうするか再検討中である。台風被害を契機に防災用として非常用ランタン、モバイル用のバッテリーを増やした。その他、カセットコンロを点検し使えないものは買い替えをした。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や誇り、プライバシーを尊重した声掛けを心がけ対応をしている。職員同士、注意しあえる環境もある。	相手を尊重する上からも、「～しませんか」「～はどうですか」をベースとした会話を重視している。例えば、汚れた物の着替えには、「着替えましょうか」と自らの行動を引き出すように心がけている。また、個人に関する情報は共有空間で話すことを避け、日々の申し送りの中で気付いたことを記録し、情報の共有化を進めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定や発言、選択肢をしやすいような声掛けや対応を心がけ対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々その人にあった生活スタイル・リズムを把握し希望に添えるよう、対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、違うものを選んで洋服を着ていただいている。選べる人は選んで頂き着て頂いている。美容師に来ていただき髪染めやカットなども行い身だしなみの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の残存機能をいかしながら出来る事は手伝っていただくようにしている。食事パーティなども行い得意料理も皆様で楽しんでいただいている。	朝食は完全調理品を使っているが、昼・夕食は月の半分は内部での調理に切り替えている。皆の前で料理することで、利用者は喜んでいる。食材は近くのスーパーで買い物をし、利用者の意見を反映しメニュー以外の料理を追加することもある。2か月に一度は食事パーティーと称し、行事食を設け季節に応じた食事の提供も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量も記録に残し1日の量が一目でわかるようにしている。それに応じてケアを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後に口腔ケアは行っている。口腔ケアも出来る限り自分でやっていただくよう努めている。義歯などは夜間消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り排泄はトイレでしていただくよう声掛けしている。排泄パターンを把握し出来る限りオムツやパットの使用量削減にも努めている。	トイレで用を足すことでパットやおむつを濡らすことなく、皮膚を傷めず褥瘡、皮膚の疾患も減ってくる。そのためにも、利用者にはできる限り排泄はトイレで行うようスマホを使った排泄管理表でチェックしている。また、便秘を少なくするためにも、水分補給、植物繊維を増やす目的で寒天料理を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日を記録に残し、客観的に判断できるようにししている。また、水分や食物繊維摂取など基本ケアを徹底し減薬に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の意志を尊重しながら入浴していただいている。 頻度は週に2～3回以上としている。 入浴が困難なご利用者には全身清拭対応にて清潔保持を行っている。	座位を保てない人は、安全を配慮して入浴に替わり清拭を行うようにしている。入浴を拒む人は無理強いをせず、タイミングをみて誘導するよう心掛けている。入浴することが何なのか理解できない利用者には、不安を拭う手段として音楽を流し歌を歌いに行こうよと誘って入浴の誘導することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムにあわせた安眠や休息の支援に努めている。寒い時期は加湿器なども活用して乾燥した環境の抑制にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況が変わった時の状況観察は記録に残したり特に注意して観察している。薬の用法や用量については日々医師に確認を行い服薬支援をっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のレベルに合わせ出来る事出来ない事を見極め各々に役割を与え張り合いのある生活が送れるよう努めている。DVDやカラオケなども活用して楽しい時間の提供も心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の外出は出来る限り行っているが職員の人員配置によってはいけない事もあり。個々の希望は個人レクで行けるように工夫をしている。車を活用したドライブなども行い出かけたい場所へ行く支援も行っている。	コロナ禍以前は近くの公園まで散歩したり、スーパーへの買い物等外出していたが、現在は外出はしていない。車を使っての外出として初詣に近くの神社まで行き車の中から参拝した。外出自粛による体力低下防止に生活機能向上連携ということで、理学療法士のアドバイスを受け立つ・座る・歩くということを生活の中に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族からお小遣いを事務所内金庫にてお預りしお買い物や外出時にご本人が使用できるようにしている。外出が難しい方には代行で買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限も無く電話、手紙の返信も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生面は勿論の事、廊下、フロアーに季節を感じることが出来る様な装飾等を利用者と共に作り飾っている。	コロナ禍以降、フロア内で安全に暮らしてもらうため1日2回の検温、室内の換気、消毒、清掃の励行を徹底している。また、職員が忙しくホーム内をバタバタと動き回ることは、利用者にとって煩わしく感じ取られる。職員がバタバタと動くことを減らすよう、日ごろから注意を払って接するようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に自由に過ごせる空間作りを心がけている。共有スペースでは長イスを置いたりして談笑出来るような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に使い慣れた物、馴染みの物を居室に置いて今までの生活を大事にしていけるよう配慮しています。	入居からの居室が、仮住まいという感覚をなくしてもらうよう配慮している。自分の家という意識で過ごしてもらうため、自宅にあった物の持ち込みを受け入れている。家ではベッドを降りて右側に出入り口があったということであれば、居室の配置もそのようにして、習慣づけられた日常生活の行動パターンを崩さないよう注意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員一人一人が個々に出来る事出来ない事を把握し出来る限り自立した生活ができるように支援しています。		